



「より深い子ども理解から はじまる」

幼児保育課 課長 内田 祥子

木の葉の色づきに秋の深まりを感じる時期となりました。秋と言えば読書の秋、皆さんはどのような本を手にとっておられるでしょうか。私が最近出会った本について、少しご紹介してみたいと思います。



『学校を変える力
イースト・ハーレムの
小さな挑戦
デボラ・マイヤー著』

ニューヨーク市において貧困が深刻で、家庭崩壊や非行など様々な問題に悩まされてきた地域で市内トップレベルの学力水準を達成したセントラル・パーク・イースト中等学校の「希望の学校」作りの記録です。退学者が大多数を占める地域でほぼ全員の卒業を実現し、9割以上の卒業生が大学に進学した驚異的成功には、どのような取り組みがあったのか。

この学校の校長であるデボラ・マイヤー先生は、『学びは各自に合ったものでなければならない、そして自由な探求を可能にする習慣は、年齢を重ねれば自然と身に付くものではなく、不確実さに出会い、多様な視点から考察し、独自の判断を行い、想像にとんだ遊びが大事である。』と子どもが自立するために手助けをするという幼児教育の視点を取り入れられています。

また『教師は、世の中の出来事を面白いと感じて子どもたちにも同じように経験させてあげたいと願っているが、その教師自身が自分はどうに学ぶのか、どのような時に学べないのかを客観

的に捉えることや他者に共感し、多様性を認めること、協同的に活動する意欲を持ち、粘り強く精力を注ぎ、専心できることなどが求める教師像であるが、全て兼ね備えていることは難しいことであり、学校自体が教師の学ぶ場でもある』とも記されています。

ここで挙げられている子どもたちにつけたい力や教師に求められている力は、本市が取り組んでいく栗東子育て Next プロジェクトの根幹である『非認知能力』そのものであると考えます。非認知能力は数値で表せないため、子どもたちの学びが深まっているかという点については、子どもの姿を『見とる』ということでは表すことができません。また保育者や教師の一人だけの見とりだけではなく、職員が互いに『子どもを語ること』が、より深い子ども理解につながり、強い保育教育力になると思います。

このセントラル・パーク・イースト校では、子ども、保護者、職員、また地域の人々も明確な目標を定めた教育的なコミュニティの一員であるとして、運営されてきています。つまり目指す保育教育に向けてそれぞれが主体者であるということです。様々な関係性の中で生まれてくる気づきこそが、重要なことであり、より質の高い保育教育に結びつきます。

今後、取り組みを進めていく『栗東子育て教育 Next プロジェクト』を通して、従来の連携をさらに深め、今を大事にしながら、未来に向けて誰一人置き去りにしない、周りの人たちを幸せに巻き込んでいくような子どもたちを育てていきたいと考えます。

< 栗東市教育研究奨励事業 >

教育研究奨励事業に関わる「研究の進め方講座及びまとめ方講座」について、今年度は、栗東市教育研究奨励事業スーパーバイザーとして、滋賀大学教職大学院准教授の北村拓也先生にお願いし、ご指導をいただいています。

北村先生からは、研究の進め方、まとめ方について、基礎基本を実践事例も交えながら、大変わかりやすく教えていただき、受講者にとって、研究を推進する上で、重要な要素を整理し、より具体的な、より一貫性のある研究を積み重ねる一助となったのではないかと思います。

残りの論文執筆期間が2か月ほどになりますが、北村先生からいただいたご指導を糧にして、一人ひとりの受講者が、大切にしてきた日々の実践を振り返りながら、研究のよりよいまとめをされるだろうと楽しみにしています。

研究の進め方講座

5月13日(金) 栗東市役所 2階 第1会議室

<北村先生のご指導から>

- *研究を進めるうえで、ビジョンをもち、願うところをはっきりさせて、課題をしっかり見つけ、子どもの姿を見取ることが大切である。
- *「こんな授業をしたい」「これを解決したい」という願いと国や県、所属校などの動向と関連させて考えてみる。
- *授業公開では、子どもの学びの姿を、子どもの表情が確認できる場所で、文字言語で記述して、『見取る』。
- *小さなPDCAを繰り返しながら、2つのP(構想)D(実践)C(検証)A(改善)サイクルを回しながら、次年度につながる研究を進める。
- *子どもの学びの姿で、研究の成果と課題を検証する!



参加者の声から

- 研究の進め方をとてもわかりやすく解説していただいたので、今後の研究の参考になりました。
- 本県の他の研究の具体的な事例を示し、研究の組み立て方や求められているものとの関連のさせ方など、非常にわかりやすい説明で、参考にしてがんばりたい。
- 研究を進める際、自分勝手になりすぎないように、国、県、市の動向をふまえて価値のある研究になるようにしたい。

研究のまとめ方講座

10月28日(金) オンラインにて

<北村先生のご指導から>

- *授業も論文も、「学び」が大切!→「まとめ」「振り返り」で学びを言語化する。
- *研究の成果・うりが効果的に伝わる内容を選ぶ!
- *論理の3要素をつなげる!→「主張」-「事実」-「理由付け」
- *国や県が目指していることや校内研究に関する現状、課題の関連も大事!
- *研究論文にまとめることが、子どもたちの成長につながる!!



参加者の声から

- 論文の書き方やまとめ方について、具体的な案やわかりやすい説明があつて、とても参考になりました。
- 大切なポイントがわかりました。実践した内容を考察し、まとめていきたいと思ひます。そして、来年度の実践への橋渡しができればと思ひます。
- 研究を進めながらも、まとめ方が分からず手をつけられなかったところに具体的な方法を教えていただいたことで論文作成の流れを掴むことができました。論文にまとめるほどの研究ができたかどうかは不安ですが、子どもたちのため、自分のために最後まで十分にやりきりたいと思ひます。



各 校 園 の 研 究 主 題

金勝第1幼稚園	主体的な保育のあり方について考える	
金勝第2保育園	「自ら人や物に関わっていける子どもの育成」～保育者や友達とのつながりを通して～	
葉山幼稚園	おもしろそう、やってみよう～動かそう心と体～	
葉山東幼稚園	『主体的な保育って?』～環境構成を通して～	
治田保育園	「身体を動かすことが大好きな子どもを育てよう～健康な心としなやかな体づくりをめざして～」	
治田幼稚園	『のびのびと身体を動かし自分なりに挑戦しようとする子どもの育成を目指して』 ～基本的な身体の動きを経験できる環境を探る～	
治田東幼稚園	「やってみよう」の心を育む	
治田西幼稚園	人との関わりを通して、主体的に遊ぶ子どもの育成～おもしろそう・やってみよう・たのしいな～	
大宝幼稚園	「心はずませ、主体的に遊ぶ子どもの育成をめざして」 ～自ら「やってみよう」と思える環境や援助の在り方～	
大宝幼稚園分園	『自ら意欲的に遊ぶ子どもをめざして』～子どものつぶやきや気付きに寄り添う保育～	
大宝西保育園	「心動かし いきいきと遊ぶ大西っ子を目指して」 ～自ら人とつながり、考え、工夫する力を育てる保育の在り方を探る～	
大宝西幼稚園	「心動かし 生き生きと遊ぶ 大西っこを目指して」～意欲的に繰り返し遊ぶ子どもの育ちを目指して～	
金勝小学校	自分の思いや考えをもち、目的や意図に応じた表現ができる子どもをめざして	国語科
葉山小学校	「できる!わかる!」が実感できる学びを積み上げて、自信をもって学習に向かえる子どもの育成	算数科
葉山東小学校	主体的にかかわり、よく考える子どもの育成～国語科の「読み」の指導を通して～	国語科
治田小学校	「言葉を大切に、自分の考えを豊かに表現する子を育てる」	全教科
治田東小学校	自信をもって自ら学ぶ子どもの育成	国語科
治田西小学校	『自分の考えに自信をもち、共に学び合う姿を引き出す授業づくり』 ～自力解決と集団解決を連動させながら学びを深める算数科の指導を通して～	算数科
大宝小学校	考え続ける子供の育成Ⅲ ～個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指して～	全教科 領域
大宝東小学校	目的意識をもって学びに向かう子どもの育成 ～学び合う喜びを実感できる算数科の創造～	算数科
大宝西小学校	自分の思いを表現する大西っ子を目指して ～説明文を用いて、論理的に思考する力を育成する～	国語科
栗東中学校	将来の生き方を拓く特別活動の在り方	特別活動
葉山中学校	主体的・対話的で深い学びと協働的な学びの一体的な充実を目指した授業実践 ～「読み解く力」育成の視点を土台において～	全教科
栗東西中学校	「読み解く力の向上を目指した ICT 機器の活用」 ～学級・学習集団作りと非認知能力の獲得を目指して～	全教科



図書館司書より先生にすすめたい一冊

『ロビンソン』

ピーター・シス／作 偕成社

著者の少年時代の実話をもとに書かれたお話。少年は仮装パーティに、大好きなお話の主人公ロビンソン・クルーソーに扮して参加しますが、友達に笑われたことがショックで寝込んでしまいます。しかし寝込んだ少年に元気を取り戻させたのもまた、ロビンソン・クルーソーの物語の世界でした。物語が私たちに与えてくれる力の大きさを感ずるお話です。
《図書館 清水優》



『あしたへの翼 おばあちゃんを介護したわたしの春』

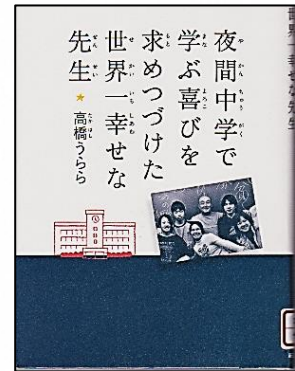
中島信子／著 汐文社

小6で行く修学旅行を楽しみにしていた理夢。ところが、学校はコロナで休校し、理夢は学校に通えないだけでなく、認知症のおばあちゃんを朝から夜までたったひとりで世話をすることになり…。周りの大人の一言によって、子どもは時に深く傷つけられ、時に元気づけられるということに改めて気づかされます。
《図書館 西堀直美》

『夜間中学で学ぶ喜びを求めつづけた 世界一幸せな先生』

高橋うらら／著 新日本出版

戦争や貧困で、学ぶ機会がなかった人や、様々な理由で、小中学校の教育を終えられなかった人たちが学ぶ場所、夜間中学。生徒たちは、作文を書くことで自分を客観視できるようになったり、様々な人との出会いで、悩みの解決につながったり…。そんな彼らの姿は、「学ぶことは生きることにつながる」と私たちに教えてくれます。
《図書館 西堀直美》



『子どもと楽しむ草花のひみつ』

稲垣栄洋／著 エクスナレッジ

田んぼや林が消えていき、めっきり町に緑が少なくなりましたが、それでも野の花たちは隙間を塗って逞しく成長し、季節にはかわいらしい花を見せてくれます。本書ではそんな身近な野草たちの豆知識を、イラストを交え楽しく解説されています。校舎の影や校庭の隅っこの植物たちのひみつを覗いてみませんか。
《図書館 清水優》

